



令和4年9月28日

愛知県教育委員会教育長 様

住所

団体名 スマイルあいち

代表 近藤花菜 飯田英理子 西尾沙耶香

学校等における食事中の座席配置について 互いの顔が見えるように見直しを求める請願

1. 請願の趣旨

2020年6月の学校等再開以来、愛知県内の学校等での食事の際には、いわゆる「黙食」の指導が現在まで継続されています。座席配置は授業の時のまま、それぞれが周囲との距離を取り全員前を向くようにしている学校が大多数です。これは愛知県教育委員会の「教育活動の実施等に関するガイドライン」において「座席は全員正面を向かせるなど向かい合わせにならないように配置する。」と記載されていることにも基づくと考えられます。私たちは、子どもたちがお互いの顔が見えるように座席配置を見直すことを求め、その必要性と実現可能性について以下のように整理しました。

(1) 食育

学校における給食は単に食事を摂るだけのものではなく、食育を推進する場としても重要な役割を担っています。文部科学省の食育に関するリーフレットでは、「学校給食は様々なことを学ぶ「生きた教材」であり、将来、児童生徒が健康で健全な食生活を営むことができるよう、様々な取組が行われている」とされています。その中で、学校給食の目標のひとつには、「明るい社会性と協同の精神を養う」ということが挙げられています。「黙食」が2年半にも及ぶ長期間に渡って続いている現状において、友達と楽しく食事をする事は「食育」の観点からも重要との考えに立ち戻り、「黙食」を見直す動きが出てきています。

(2) 給食中の窒息事故

全員前を向いて等間隔に離れている座席では食事中も児童生徒同士の顔や表情を窺うことはできません。本年7月に私たちが独自に行ったアンケートでは、愛知県内の保護者から「学校での給食時に具合が悪く嘔吐などがあった子どもがいたのに周りがすぐに気づけなかった」という事例が記載されていました。2021年7月には、新潟県佐渡市の市立小学校で、5年生の男児が給食中にパンをのどに詰まらせて死亡しています。

<以下、報道の引用>

【給食のパン詰まらせ重体の小5、亡くなる 新潟・佐渡 朝日新聞デジタル 2021年7月11日】

市教委によると、7 日午後 0 時 25 分ごろ、給食中に児童が米粉パンをのどに詰まらせた。教室には児童 21 人と担任教師 1 人がいた。給食は同 0 時 20 分に始まり、同 40 分までの予定だった。児童はそれぞれの机で前を向いて食べるよう指導され、死亡した男児がどのようにパンを食べていたかは、見ていた児童がいなかったため分からないという。パンは楕円(だえん)形で長さ約 12 センチ、厚さ約 4 センチ。半分ほど残っていた。

異変に気付いた教師が、男児の背中をたたいたり、腹部を突き上げたりしてはかせようとした。男児は少しはき出したが、まもなく気を失った。救急車が到着するまで養護教諭が心肺蘇生を試みたが、意識は戻らなかったという。

佐渡市では過去にこうした事故の記録はなく、米粉パンは 2009 年から給食に出していたという。会見で新発田靖・教育長は「痛恨の極みです。安心安全であるべき学校で痛ましい事故が起きたことを大変重く受け止め、再発防止に努めます」と語った。市教委では「ご遺族や児童の心のケアに取り組む」としている。

(3) 事故防止等

全員離れて前を向いたままの座席では、上記のような窒息等の事故の発見が遅れる可能性があります。事故防止のためには教師が責任を持ち児童生徒の様子を確認すべきですが、一人では限界もあります。子どもたち同士で顔を見合って楽しさを分かち合いながら食事を摂ることは、周囲の様子の変化にも気が付きやすくなるため、安全にも繋がります。友達の素顔を見られる機会にもなります。

(4) 省庁や政府の指針等

文部科学省の通知や『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～（以下、「衛生管理マニュアル」という）』において、小中学校等においては飛沫を飛ばさないよう「机を向かい合わせにしない」などの対応が必要であると例示されていますが、高等学校等についてはそのような記載はありません。また、お互いの顔が見えないような全員前を向かせる座席配置についての言及や推奨はありません。

松野官房長官記者会見（令和 4 年 6 月 10 日）では『学校給食の場面での感染対策については、文部科学省が作成している衛生管理マニュアルにおいて、飛沫を飛ばさないよう、例えば、机を向かい合わせにしない（中略）などを示しているところであります。各自治体において、この衛生管理マニュアルも踏まえつつ、地域の実情に即して適切に取り組んでいただきたいと考えております。』と発言されています。

(5) 工夫の実例

机を向かい合わせにしないという文部科学省の指針に沿うとしても、お互いの顔が見えるような工夫は様々に考えられます。実例としては、大きな円にする、授業中の座席位置のまま教室の中央に机を向け距離を保ちつつ互い違いとなり真正面の対面にならないようにする、4 人までの小さなグループにする、などがあります（報道や本会メンバー、

他自治体の知人からの情報)。アクリル板で仕切ることも工夫の一つかもしれませんが、仕切りは空気の滞留を起し感染リスクを増やす可能性がある」と報道されています。

(6) 黙食緩和の動き

本年6月以降、いくつかの自治体で黙食の緩和の動きがあり、福岡市、宮崎県では大声を出さなければ会話可能とされ、継続されています。千葉県では4月から対面での黙食を可能としています。なお、県内某市でも、大声でなければ会話をしてよいとのこと。開始時期や理由について教育委員会に問い合わせたところ、2020年の学校再開時からであり、理由としては各学校が1クラス当たりの人数など個別の状況に応じて詳細な対応を決めている、その際の指針である衛生管理マニュアルには大声を出さなければ会話可能であるように記載があり、教育委員会としては衛生管理マニュアル以外に独自に付け加えていないため、結果として会話可能であるとの方針を一貫して継続してきているとの回答を得ました。

<以下、報道の引用>

【学校給食の“黙食”に緩和の動き。「徹底」の表現を見直した地域も…子どもにはどう影響する？ 実情を聞いた FNN プライムオンライン 令和4年6月10日】

千葉県教委の担当者に聞くと、コロナ禍ではグループ活動などが制限されたこともあり、児童生徒にはストレスや運動不足の傾向もみられるという。マスクの常時着用によるコミュニケーションの阻害も感じられ、こうした状況を少しでも解消できればと、対面での黙食を認めることにしたとのこと。

(7) 子どもの声

私たちの会では本年7月に愛知県内の子どもと保護者、地域住民を対象に学校における感染対策全般についてのオンラインアンケートを行いました。食事の時間についての個別回答は多くはありませんでしたが、感染症対策の本質から離れていたり、子どもの心情への配慮に欠けたりする対応も見受けられました。

<以下、アンケート自由記述からの抜粋>

「給食は透明ですらないつい立てに囲まれ、刑務所のように無言で食べています。」(T市こども園)

「先生には背を向けて(非対面)、テーブル同士は距離をあけて、黙食しなければいけない」
(N市小3又は4)

(8) 飲食店での感染予防対策

内閣官房所管部署他より発出の事務連絡「飲食店における感染防止対策を徹底するための第三者認証制度の導入について(改定その6)」(令和4年9月8日)において、来店者の感染症予防として示されている内容としては、全ての座席について「①パーティション等の設置または②座席の間隔を1m以上確保すること」、そして「真正面での着座配置をしないこと」が記載されています。つまり真正面の配置を避け1m以上の距離を確保できれば認証基準を満たすこととされています。なお、パーティション等を設置す

る際には、空気の流れを阻害しないように留意するよう書き添えられています。

以上のようなことから、食事時の座席配置の見直しは、窒息や体調不良の見逃し等による事故防止や、食育の機会損失による影響を懸念する観点から必要性があると考えます。また、感染症対策との兼ね合を工夫しつつ、お互いの顔が見える座席配置へと見直しを行うことは可能であるため、以下のように請願をいたします。

2. 請願項目

- (1) 食事時の座席はお互いの顔が見えるような配置の工夫を認めるようにお願いします。
- (2) 愛知県教育委員会の「教育活動の実施等に関するガイドライン」における「座席は全員正面を向かせるなど向かい合わせにならないように配置する。」という部分は、(1)のことを踏まえた内容へ見直すようにお願いします。

学校等における食事中の座席配置について 互いの顔が見えるように見直しを求める請願 資料

(5) 工夫の実例 関連報道資料

「飛沫感染予防のパーティションが感染リスクを増やす可能性あり」

2021年7月2日 日経メディカル

《記事抜粋》

『電気通信大学の石垣陽氏らは、宮城県で報告された小規模クラスターの発生現場の環境について検討し、換気が不十分な室内環境では、SARS-Cov-2感染予防のために設置したビニールシートやアクリル板のパーティションにより室内気の滞留が起こり、逆に感染リスクを高める可能性がある」と報告した。』

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/report/t344/202107/570903.html>

(6) 黙食緩和の動き 関連報道資料

○「学校給食の「黙食」を緩和、「会話可能」に 福岡市教委」

2022年6月17日 教育新聞

《記事抜粋》

『福岡市教育委員会は、学校給食の時間は会話を控える「黙食」を緩和し、「大声でなければ会話は可能」とする方針を決め、6月13日付で同市内の小学校、中学校、特別支援学校に通知した。市内の新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきていることから、専門家にも意見を聞いた上で、学校給食における感染症対策の段階的な緩和が可能と判断。友達と楽しく食事をする「食育」の観点から、「黙食」を見直すこととした。

今回の判断について、同市教委の担当者は「市内の感染状況は落ち着いてきている。友達と楽しく食事をすることは食育の観点でも一番重要であり、段階的な緩和が必要だと考えた」と説明。判断に際しては専門家に意見を求め、九州大学病院グローバル感染症センターから「給食を食べている時間はそこまで長くない。飛沫が飛ばない程度の会話であれば、緩和しても良いのではないか」との見解が示されたという。』

https://www.kyobun.co.jp/news/20220617_04/

○「学校給食の“黙食” 「異常な状況」緩和の動き…専門家「段階を踏む必要」」

2022年6月13日 テレ朝 news

《記事抜粋》

『懐かしい、にぎやかな学校給食の風景。新型コロナウイルスの感染防止対策として義務付けられた“黙食”は、およそ2年にわたって続けられています。こうしたなか、黙食の見直しを検討する自治体も出てきました。』

福岡市・高島宗一郎市長：「何も言わずに、教室の中で皆がシーンとして食べるっていうのは、コロナという緊急事態に応じた、やはり異常な状況だと思う」福岡市では今後、専門家の見解を聞いたうえで、具体的な方針を固めていくということです。こうした動きに対して、松野博一官房長官は10日、文部科学省の衛生管理マニュアルを踏まえたうえで「地域の実情に応じて、適切に対応してほしい」と述べました。

松野博一官房長官：「学校給食は、学校生活のなかで、子どもたちが楽しみにしている時間。学校においては、感染対策と教育活動の両立が求められていることから、基本的な感染対策を徹底していく必要がある」』

<https://headtopics.com/jp/233982665732102783379-27206754>

○「宮崎県教委子どもの「黙食」見直しへ 大人の行動緩和も背景に」

2022年6月3日 NHK 宮崎

《記事抜粋》

『宮崎県は3日、新型コロナウイルスに対する警戒レベルの引き下げを表明する見通しで、これに合わせて県教委も新たな通知を出し、「黙食の徹底」という文言を削除する方針を固めました。

“大人”の世界では飲食の場での行動要請が次々に緩和されるなか、「子どもにだけ厳しすぎるのではないか」という声が上がったことも背景にあるということです。』

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220603/k10013655441000.html>

○「医師 62%「学校の黙食指導見直しを」小児科では 78%に」

2022年7月3日 m3.com

《記事抜粋》

『ワクチン接種の進捗などによって、会食に関する制限が徐々に緩和される中、小学校などの給食でも、クラスメートと向き合わず黙って食べる「黙食」指導を見直す動きが出ている。m3.comの意識調査では、医師の61.8%が「黙食」を見直すべきだと答え、維持すべきだという回答を上回った。特に、小児科系の医師では78.4%が見直すべきだと回答した。』

<https://www.m3.com/news/open/iryoishin/1055208>

(8) 飲食店での感染予防対策 関連資料

令和4年9月8日付け内閣官房等事務連絡「飲食店における感染防止対策を徹底するための第三者認証制度の導入について（改定その6）」

1. 第三者認証制度の基準の作成について

(1) パーティション等の設置（座席の間隔の確保）

全ての座席について、①パーティション等（アクリル板、ビニールカーテン等）が設置されている、又は②座席の間隔が1m以上確保されていること。

なお、パーティション等を設置する際には、空気の流れを阻害しないように
ご注意ください。

別添 1 感染症予防対策に係る認証の基準（案）

1. 来店者の感染症予防

(2) 食事・店内利用

—〔同一テーブルでの配置についてはいずれかを満たすこと〕—

- 真正面での着座配置をしない。座席の間隔を最低 1m 以上確保できるように配置する。
- テーブル上にパーティション等を設置して遮蔽する。

賛同者、賛同団体リスト

『学校等における食事中の会話を可能とするように見直しを求める請願』

『学校等における食事中の座席配置について互いの顔が見えるように見直しを求める請願』

【賛同者名】

浅井富成 医師

浅井医院 院長（名古屋市守山区）

全国有志医師の会 会員

名古屋有志医師の会 会長

末永啓 元春日井市会議員

全国有志議員の会 会員

【賛同団体名】（愛知県内の保護者団体）

全国有志子どもを思う会 愛知県支部

名古屋有志親の会

瀬戸子ども笑顔の会

豊橋の子どもの笑顔を考える会

子どもの笑顔と人権を守る会

日本の次世代を守る会

愛知子どもの幸せを考える会